

【目的】

本研究の目的は、先行研究を基に作成した高校生のスポーツ・身体活動におけるパーソナリティ分類方法を日本の各地で応用可能であるかを検討することであった。また、各パーソナリティへのアプローチ方法や地域によってパーソナリティにおける特徴が存在するか比較・検討を行うことである。

【方法】

本研究の調査対象者は、中国、関西、関東、北陸地方に在住する高校生 1713 名であった。永井（2019）のパーソナリティ分類を基にアルゴリズムを用い、7つにパーソナリティ分類を行った。質問項目に関しては、先行研究同様に修正版パーソナリティ分類調査項目と、新たに先行研究を参考にアプローチ方法に関する質問項目を作成し、調査に用いた。

【結果】

アルゴリズムによる 7 つのパーソナリティ分類は、各クラスターの帰属確率が 77% を超え、他の地域でもパーソナリティ分類が応用可能であることが示された。しかし、アプローチ方法に関しては、スポーツへの関与が低いクラスターに対するアプローチ方法については、今後更に検討をする必要があると考えられた。また、地域別によるパーソナリティ構成比に関しては、学校の特色による影響によって異なることが示唆された。

【結論】

高校生のスポーツに関するパーソナリティのアルゴリズムを開発し、他の地域においても 7 つのクラスター分類が応用可能であることが示唆されたことから、パーソナリティごとに命名を行った。